

十日市場団地地区

十日市場団地地区別計画推進策定委員会

地域 十日市場町（十日市場団地地区）

昭和34年から39年にかけて建てられた市営十日市場住宅を中心とした地区です。建物の老朽化に伴い、十日市場ヒルタウンとして平成3年から全面的な建替えを実施し、高層化により人口も増加しました。ヒルタウンの名称のとおり、丘陵状の地形に計画的に整備されています。

また、「持続可能な住宅地モデルプロジェクト」の取組の一つとして、民間活力の導入や市有地の有効活用等について検討されています。

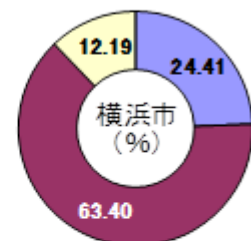
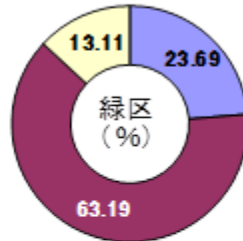
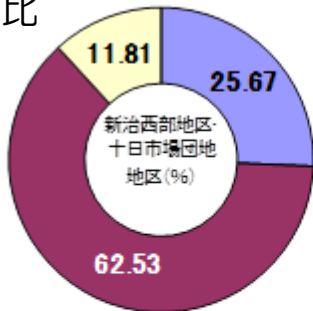
<主な関連施設>

- 最寄駅：十日市場駅（JR横浜線）
- 震災時避難場所（地域防災拠点）：十日市場中学校
- 地域ケアプラザ等：横浜市十日市場地域ケアプラザ

<年齢区分別人口> 人口比

令和元年(2019年)9月末

■高齢化率(65歳以上) ■生産年齢人口比率(15~64歳) □年少人口比率(0~14歳)



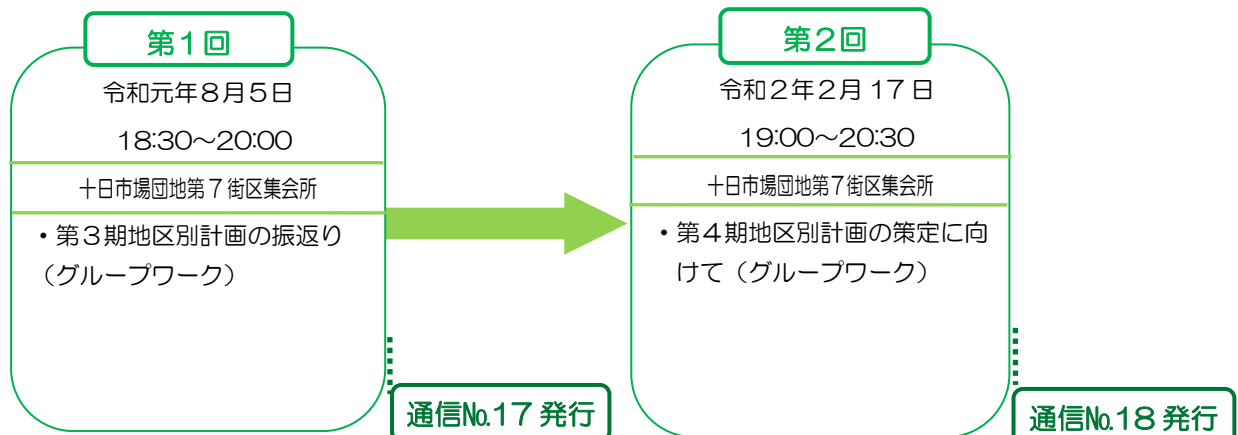
75歳~	2,939人
65~74歳	2,141人
15~64歳	12,375人
6~14歳	1,412人
0~5歳	925人
合計	19,792人

75歳~	22,028人
65~74歳	20,929人
15~64歳	114,577人
6~14歳	14,867人
0~5歳	8,908人
合計	181,309人

75歳~	472,212人
65~74歳	443,935人
15~64歳	2,379,379人
6~14歳	283,586人
0~5歳	173,729人
合計	3,752,841人

注) 上記の人口データには、新治町、十日市場町及び長津田みなみ台7丁目のデータを集計しています。

地区別計画推進策定委員会の開催状況



緑区地域福祉保健計画「みどりのわ・ささえ愛プラン」令和元年度地区別計画推進状況



十日市場団地地区



地域が団結していつまでも支えあえる
十日市場団地を目指します！

十日市場団地地区では、『いつまでも支えあえる十日市場団地』を目指してまちづくりに取り組んでいます。

「十日市場団地 お茶飲み会」 が 7周年を迎えました！

令和元年12月に7周年を迎えた「十日市場団地お茶飲み会」は、『一人ぼっちにさせない』を合言葉に、毎月開催しています。8月・12月には、近隣保育園の園児も歌や踊りを披露し、多世代交流の場にもなっている憩いの会です。



こどもの居場所「こども村」1周年！



地域の中での“子どもの居場所”として昨年12月にオープンした「こども村」が1周年を迎えました。ケアプラザでの定期的な開催を継続するとともに、夏休みのイベントやバザーも実施するなど、地域に根付いた活動として定着してきています。



これからも団結して地域の「つながり」を作っていきます！

十日市場団地地区 地区別計画推進策定委員会



十日市場団地地区別計画推進策定委員会
令和元年10月発行 第3期 No.7 (通算 No.17)

十日市場団地 地区別計画推進策定委員会



令和元年8月5日(月)十日市場ヒルタウン第7街区集会所において「令和元年度第1回みどりのわ・ささえ愛プラン十日市場団地地区別計画推進委員会」を開催しました。まず、第3期「みどりのわ・ささえ愛プラン」十日市場団地地区計画における、平成30年度の取組と第3期十日市場団地計画の振り返りを行いました。また、十日市場団地の人口構成と今後について、データを基に地域の状況を委員の皆さんと共有しました。

みどりのわ・ささえ愛プランとは・・・



誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題の解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む、緑区の『地域福祉保健計画』です。



✓ 十日市場団地地区の現状と今後の予測

- ・ 少子高齢化が進行し、世帯規模も縮小傾向にある。
- ・ 市全体に比べると、10代、70代~の割合が高いが、20代から40代の生産層の割合が低い。
- ・ 65歳以上の高齢化率が50%を超える自治会がある等、高齢化が進行している。
- ・ 今後も人口は減少傾向にあり、地域活動の担い手として期待される世代の人口も減少することが予想される。どのように地域活動を継続させるかが課題



【令和元年度 十日市場団地地区別計画推進委員】

○推進委員会メンバーは、民生委員児童委員協議会、連合自治会、保護司会、地区社会福祉協議会、地区老人クラブ連合会、更生保護女性会、環境事業推進委員会、消費生活推進員、十日市場中学校、十日市場小学校などから構成されています。

★橋川茂子、宮本増穂、百武節代、相田泰喜、川村武子、山内ユミ子、古川十三雄、吉田貞雄、岩附イソ、三好一明、野田義人、吉田俊二、白石武、石上國雄、久保田サチ子、羽鳥節子、石川多美、大村律子、田中正人、堀川智子、長崎清美、鈴木雄二、尾崎敏明、笠原紀代子、古屋紀美代、平良美枝子、川隅やす子、倉澤啓子、池袋タツ、金谷エイ子、白田邦彦、平井仁女、山口等、本田富男、能登富士子、高杉キサ、八木範夫、平田あや

(敬称略、順不同、★：委員長)

☆☆ 裏面では、委員会での意見交換の内容についてご紹介いたします！ ☆☆

第3期地区別計画の中間振り返り (平成28年度～30年度の取組)

第3期みどりのわ・ささえ愛フラン地区別計画」の3つの目標について、活発な意見交換を行われました。

意見交換で出た意見の一部をご紹介します！



【目標1】地域が団結して、「つながり」を作り、あらゆる世代の交流を広げよう

- ・十日市場団地お茶飲み会はスタッフも含めると毎回40人程度が参加している。こども達にも参加してもらうため土曜日に開催したが、期待より参加が少なかった。広報を工夫し、参加を増やしたい。
- ・お茶飲み会の担い手は、新しい人が入りやすい雰囲気積極的に作りたい。他の活動に参加しているボランティアにも参加を促してはどうか。
- ・あいさつについては、身近な人とはできていると感じる。地域のこども達にも声掛けをしていきたい。
- ・清掃活動は月1回継続している。安否確認や情報交換の場として活用できている。
- ・世代間交流は、お茶飲み会の土曜開催や「こども村」を通じて実施。今後も拡充したい。

【目標2】連携して「見守り」を進め、いつまでも支えあえる地域を目指そう

- ・ボランティアセンターについては、広報が不足しているのではないかと。
- ・地域行事への参加については女性比率が高い。男性参加者増加が課題。
- ・玄関ポストに郵便物がいっぱいになっていないか見守る、とあるが、いっぱいになってからでは手遅れ。個人情報保護の制約で、様子を探ることができないと感じる場面もある。
- ・防災の取組が十分に出来ていない。高齢者には訓練参加が難しいこともある。いざという時の対策をどうするか、予め日頃から考えておく必要がある

【目標3】健康や交流を意識した取組を進め、地域をもっと元気にしよう

- ・ウォーキングやラジオ体操等を他の自治会では活発に行われていると聞き、関心を持った。活動には地域差が出ているのが実情。
- ・“認知症を知る”に関して広報が課題。認知症だけでなくうつ病も増えていると感じる。



当日の委員会の様子



3つの目標にそって、地域で色々な取組、活動を行ってきました。
今回の振り返りをもとに、第4期十日市場団地地区別計画の策定を行っていきます！！



<連絡先>

十日市場団地地区別計画推進策定委員会 事務局 緑区こども家庭支援課内 TEL：930-2332



十日市場団地地区別計画推進策定委員会
令和2年3月発行 第3期No.8 (通算No.18)

十日市場団地地区別計画推進策定委員会

令和2年2月17日(金)、令和元年度の第2回「みどりのわ・ささえ愛プラン 十日市場団地地区別計画推進策定委員会」を開催しました。前回の委員会で、第3期十日市場団地地区別計画の振返りを行いました。

当日は第4期十日市場団地地区別計画の策定に向けて、こういった取り組みが必要か活発な意見交換を行いました。内容を一部ご紹介いたします！

みどりのわ・ささえ愛プランとは・・・



誰もが身近な地域で安心して暮らしていけるよう、福祉・保健に関する課題の解決に向け、区民や団体、事業所、地域ケアプラザ、緑区社会福祉協議会、区役所などが協働で取り組む、緑区の『地域福祉保健計画』です。

前回の委員会でいった、第3期十日市場団地地区別計画の振返りの共有をしました。

- 参加者・担い手の高齢化
- 担い手不足
- 地域の情報の周知方法
- 交流の場の充実・拡充
- 新しい住民との交流

上記の課題があることを、確認しました。



▲ 当日の委員会の様子

【十日市場団地地区 地区別計画推進策定委員】

推進策定委員会メンバーは、連合自治会、地区民生委員児童委員協議会、地区社会福祉協議会、地区保健活動推進員、保護司会、地区老人クラブ連合会、環境事業推進委員会、十日市場小学校、十日市場中学校 などから構成されています。

★ 4つのテーマに分かれてグループワークを行いました。意見の一部をご紹介します！ ★

Aグループ テーマ：見守りを必要とする住民の増加

- ・見守りをする人（民生委員ではなくても、気にしてくれる人）を増やさないといけない
- ・高齢者だけではなく、子ども・子育て世帯にも見守りが必要
- ・男性は、家から出てこないことが多い。60代ぐらいの男性が参加しやすいような場の検討
→地域活動に参加してもらうことも、見守りにつながる

Bグループ テーマ：地域の活動の周知方法

- ・現在、住連通信が休止中。頻度を減らしても、同様の広報の発行を続けていきたい
- ・回覧板の内容を見やすくする、行事のスケジュールをわかりやすく掲示する等、工夫が必要
- ・地域の各団体が、どのような活動をしているか周知していきたい

Cグループ テーマ：交流の場の充実・拡充

- ・最近では、住民の方の入れ替わりが進み、住民同士が疎遠になっている
- ・すでにある活動の参加者は、固定化している
- ・役割を担ってくれる人が少なく、続けてくれる人はさらに少ない



Dグループ テーマ：新しい住民との交流

- ・「こども村」の取組を通して、ママ友の繋がりができるといい
- ・ラジオ体操等、新しい住民も参加しやすいような活動の検討
- ・誰も参加できる、地域活動の周知の仕方の検討



▲ 橋川委員長

最後に橋川委員長より

「皆さんから、色々なご意見を頂きました。今日、出た意見をまとめて第4期十日市場団地地区別計画の策定を行います。次年度の委員会もどうぞよろしくお願いいたします。」と話されました。

【令和3年度から始まる 第4期みどりのわ・ささえ愛プランの方向性】
多分野横断的な視点で計画を推進
地区別に目指す姿を設定し、住民の方々にわかりやすい表現に工夫していく

<連絡先>

十日市場団地地区別計画推進策定委員会
事務局 緑区こども家庭支援課内

TEL：930-2332